

いま、未来の白石市民に伝えたいこと

本市では、震災後市民の皆さんから、震災時にどんなことを感じたか、未来に向けてどんなことをすればいいかなどについて自治会などにアンケートを行いました。市民の皆さんの貴重な声を参考にしながら、未来の元気な白石市をつかっていきたいと思えます。

今は映像として残るものがあるので、現実の姿を未来の市民に伝えていかなければならないと考える、そして災害の備えをもう一度見直してみるべきと思う。

今はとなり近所のつき合いが少なくなり、となりは何をする人ぞ、という具合に無関係な顔をしていて、いざこのようなことがあってからの助けてはあまりに都合が良さすぎます。ですから、常日ごろからの「おはよう」「こんにちは」のあいさつからが大事であると思う。

給水にも苦労しました。給水車も必要かも。各地区へ大きな「タンク」を要望します。

大震災を忘れさせないために
毎年3月11日を（例）「白石市民防災の日」と定め意識の高揚を図る対策を検討してはどうか。

地震を甘く見ないこと。

未曾有の不規則な間隔で発生する大地震、予知されない。日ごろからの防災に対する知識や予知能力を養うことが重要と思う。

地域巡回にはまず民生委員との連絡、避難所への確認と足となる車の燃料不足にやや心配ながらも動いた。

普段の準備・用意が必要であることを痛切に感じた。

家を新築または、購入を計画される方々、土地が盛土なのか切土なのかよく地盤を調べ十分に検討した方がよいと思います。

人の優しさ。

日ごろ近所と話し合ったりして交流を持っていたため、地震で明かり、食料、水など困ったことなどお互い協力して生活で助かりました。日ごろの近所の交流の大切さが分かりました。

自然災害はいつ発生するのか。常日ごろの住民との付き合い、絆が大切。

今の喜びの体感を忘れず、教訓としてつなぐこと
どんな時でも所でも、支え合い生かされていること。

高齢のお年寄りは個別に対応した。日中は若い人がいないことを痛感した。

行政区内で飲料水（井戸、わき水）の事前調査や自家発電の備え（購入時補助が必要）が必要と感じた。

「正確な世帯の名簿が一番大切」人命にかかわることだから必要。

未曾有の大震災を経験して、住民相互の助け合いや、連携がなくなってきているのをすごく感じた。

横のつながりが必要と感じた。

地区有志、自治会役員の最大級の支援で何とか過ごしたが、まだまだ反省点は多い。上下水道、電気、道路などにすぐには明確な答えは出ないが、一步一步前向きに進むしかない。

自治会で作成した「防犯、防災地図」は全戸に配布されている手作り版だが、役に立ってくれたと思う。

近隣との友好地域の活動、行事への参画。

使われていない井戸が相当あるので、今後市の力を借りながら井戸の活用も考えるべきだと思います。

今後の自主防災組織の運営においては、住民同士のつながりを築いていくことが最重要課題である。

地震災害もさることながら、放射能被害、原因関連を正視していくことを望む。

千年に一度の体験で何か申されても、ただ子どもたちに2011年3月11日のことを話すしか今のところありません。

皆同じ状況の中でお互いに助け合う気持ちを、どこかで出せるようにしないといけないと思う。

自分の子ども、孫には避難場所を確認しておく。

民生委員と自治会長での手分けしての安否確認、一応は行ったが、何日間かは続けた方が良かった。（親戚宅への避難もあった）。

一番危険な事は、屋根が瓦の家で、外に出る時が要注意なので、地震が収まるまで待つと良いです。

市民全員参加の災害に強い町づくり、それは一人ひとりが知恵を出し合い行動することです。

自然がもたらす災害はやむを得ないと思うが、人災は防がなくてはならないと思う。

地震のたびに被害に遭う地域があるので、道路作りや建築基準の見直しが必要。地震に弱い地域を確認できるようなマップ作りも必要。

道路の両側の屋根から瓦が落下してきて、歩行している人に当たりそうな感じがした。避難する時は落下物に当たらない所へ逃げるのが肝要。

避難所での1本のロウソクの灯りが互いの心をつなぐことの尊さを気付かせてくれました。

車がないと生活できない地区なので、ガソリンの備蓄が必要。各家庭で、出来たら地区で備蓄できるといいのだが。

今回の地震で自然の脅威を痛感した。人間の力ではどうにもならない。しかし人々は困った時は助け合うという素晴らしいものを持っている。

“皆同じ”状況の中で、お互いに助け合う気持ちをどこかで出せるようにしないといけないと思う。

震災後は4人一組で各家庭をノットロールしました。市からの飲料水の配布あり、各家庭に届けました。その時ケガなどをしてないか、また、ほしい物はないかと聞いてまとめました。自治会全体で復旧に頑張ったことがとても良かったです。



平成23年		
3月	11日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。白石市で震度6弱を観測。この地震で福島第一原発1～3号機が自動停止（14時46分）。 首相官邸内危機管理センターに官邸対策室が設置（14時50分）。 白石市災害対策本部を設置（15時10分）。 気象庁が地震を「東北地方太平洋沖地震」と命名（16時）。 政府が原子力災害対策特別措置法に基づく初の「原子力緊急事態」を宣言。
	12日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 生活関連情報の広報車による広報、公共施設・避難所への掲示を開始。 緑が丘1丁目地内地滑りのため避難指示（17時5分）。
	13日(日)	<ul style="list-style-type: none"> 市内23カ所の避難所に1,910名が避難（最大時）。 震災で発生したがれきの受け入れを開始。 緑が丘12番地内地滑りのため避難勧告（9時35分）。 城南2丁目地内地滑りのため避難指示（11時45分）。
	14日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 市役所1階に生活相談窓口（ごみや上下水道、住宅、健康に関する相談）を開設（～26日）。 市民バスの運行を再開（市道コスモスラインの一部が通行止めのため迂回運行）。 鷹巣字柴ノ下地内法面崩壊のため避難勧告（14時45分）。
	15日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設と避難所に公立刈田総合病院で測定した放射能測定結果の掲示を開始。 生活関連情報の全地区回覧を開始
	16日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 市役所の窓口業務を再開。 全戸の停電が解消（22時38分）。
	18日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 被災証明の受け付けを開始。 市民タクシー「緑が丘線」（寿山・緑が丘地区～城下広場）が4人乗り小型タクシーでの運行を再開。
	20日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ミヤコーバス「臨時バス長町白石線」（JR長町駅東口～城下広場）が運行開始（～4月7日）。
	21日(祝)	<ul style="list-style-type: none"> ごみの収集を再開。
	22日(火)	<ul style="list-style-type: none"> り災証明の受け付けを開始。

平成23年		
3月	23日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 臨時議会を開会。被害状況の報告と災害応急費の補正予算を可決。
	24日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 全戸の電話回線が回復。
	28日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 全戸の上水道・簡易水道が通水。
4月	1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 白石市復興対策室を設置。 政府が震災の呼称を「東日本大震災」と決定。
	7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県沖を震源としたマグニチュード7.4の最大余震が発生。白石市で震度5弱を観測（23時32分）。 郡山・緑が丘・白川の一部約300世帯が断水・減水（4月7日、通水）。
	20日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 白石市東日本大震災復興対策会議を開催。
	29日(祝)	<ul style="list-style-type: none"> 登別市、海老名市とトライアングル交流を宣言。
5月	9日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 水道水・自己水源の放射能測定を開始。
6月	24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 震災関連の大型補正予算が可決（震災関連に26億1,600万円）。
9月	15日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 農産物の放射能測定結果の公表を開始。
	30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 避難所をすべて閉鎖（延べ避難者数は18,432人）。 白石市東日本大震災復興計画を策定。
11月	1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 放射能対策室を設置するとともに、放射線測定器の貸し出しを開始。
12月	5日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 食品等の放射能測定の受け付けを開始。
	28日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 国から汚染状況重点調査地域に指定される。

平成24年		
1月	11日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 保育園の給食材の放射能測定結果の公表を開始。
	29日(日)	<ul style="list-style-type: none"> 「平成23年度自主防災組織リーダー研修会」を開催。仙台市宮城野区福住町内会長の講演などが行われた。
2月	1日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 焼却灰の放射能測定の受け付けを開始。
	9日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 復興推進計画「民間投資促進特区（ものづくり産業版）」が承認される。



①NPO法人「小十郎の郷」が復興に向け元気を取り戻そうと「小十郎の郷」をプレオープン（平成23年4月29日） ②海老名市が白石市で「植樹交流ツアー」を開催。植樹祭やかながわ環境大使・白井貴子さんによる復興祈願ライブ、映画上映会などが行われた（平成23年7月8日・9日） ③白石青年会議所が「東日本大震災チャリティーコンサート」を開催。山崎バナラさんの司会でコンサートが行われ、最後に参加者全員で黙祷を捧げた（平成23年6月11日）



①白石青年会議所が「2011復興盆踊りフェスタ」を開催（平成23年8月14日） ②「大地丙太郎プレゼンツ白石チャリティー・アニメ上映会」を開催。大地監督の作品「おじゃる丸」などの上映のほか、山崎バナラさんとともに白石城の復興のために募金を募った（平成23年9月18日） ③平成23年10月1日、「鬼小十郎まつり」を開催。「白石市消防団伝統階子乗り復活10周年記念式典」、「東日本武将隊サミット」も行われ、最後に復興を願い参加者全員で勝ちどきをあげた

平成24年

3月	5日(月)	・平成24年度一般会計当初予算137億7,116万円(震災関連に9億1,800万円)。
	31日(土)	・白石市災害対策本部を解散。
4月	3日(火)	・小中学校の給食材の放射能測定結果の公表を開始。
	23日(月)	・東町に、電池パック製造のトーカドエナジー(株)新白石工場が完成し、竣工式。
5月	3日(祝)	・「第54回全日本こけしコンクール」を2年ぶりに開催(～5日)。復興への思いを込めて3日間に拡大し、約4万人が会場に訪れた。
	17日(木)	・山形県長井市、岩手県奥州市と「大規模災害時における相互応援に関する協定」を締結。
	24日(木)	・白石市除染実施計画を策定。
6月	9日(土)	・白石城復旧工事見学会(～8月26日)。
	10日(日)	・震災の教訓を生かし、いざという時に備えるため「避難所設置運営訓練」を市内全域で開催。
7月	2日(月)	・住民相互の絆を深めることで地域力を高めるまちづくりを進めるため、協会員と利用会員からなる会員登録制の有償ボランティア制度「高齢者等地域ささえ愛ネットワーク事業」をスタート。
	25日(水)	・白石市商工会議所が2割増商品券を販売。
9月	30日(日)	・白石城復旧工事が完了し、一般公開を再開。
10月	28日(日)	・平成24年白石市産米の安全を宣言。
12月	12日(水)	・みやぎ生協と、高齢者の孤独死を防止するため「高齢者見守りの取組みに関する協力協定」を締結。

平成25年

1月	17日(木)	・白石インター工業団地に、防犯・防災関連機器製造のセコム工業(株)の新本社工場が完成し、竣工記念式典。
2月	17日(日)	・自主防災組織や自治会、各学校の代表を対象とした「防災講演会」と「総合防災訓練」の説明会を開催。
	22日(金)	・白石市独自の復興推進計画が承認され、(株)バルタックへの利子補給金支援が認められる。
3月	4日(月)	・平成25年度一般会計当初予算139億602万円(震災関連に2億7,700万円)
	11日(月)	・自主防災組織や警察、消防、自衛隊などの代表で構成する「白石市防災会議」を開催。防災計画の決定や市職員の初動体制の見直し方針、防災まちづくり計画の策定の審議などが行われた。
	29日(金)	・白石市除染実施計画を第2版に改正。



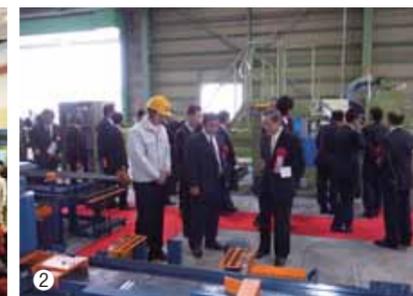
①②震災復興支援国際交流演奏会「F・リスト200年の祈り」がホワイトキューブで開催。世界的に活躍する音楽家たちなどが白石市に集った。また、傑山寺では「震災供養大茶会」が開催。京都・大徳寺別院、徳禅寺の橋宗義住職を迎え茶会などが行われ犠牲者の冥福を祈った(平成24年3月5日) ③東町にトーカドエナジー(株)新白石工場が完成し、竣工式(平成24年4月23日)

平成25年

4月	1日(月)	・仙台・宮城デスティネーションキャンペーンが開催(～6月30日)。
5月	28日(火)	・NTT東日本宮城支店と、各指定避難所に特設公衆電話を2台から3台程度設置する「特設公衆電話の事前設置・利用に関する覚書」を締結。
6月	9日(日)	・震災の教訓を生かし、より実践的な訓練と備えを行うため、各自主防災組織や各自治会が独自にシナリオを作成し、「避難・安否確認訓練」「避難所開設・運営訓練」を市内全域で開催。
	18日(火)	・東北大学の東北メディカル・メガバンク機構と、「東北メディカル・メガバンク事業に関する協力協定」を締結
8月	29日(木)	・白石インター工業団地に、化粧品や日用品、一般用医薬品の卸売り最大手企業である(株)バルタックの大型物流センターRDC宮城が完成し、竣工式。
9月	28日(土)	・天王工業団地に、ユニット式溶接鉄器製造の国内大手であるメクス(株)の東北工場が完成し、落成式。
10月	5日(土)	・慶長20(1615)年、片倉小十郎重綱が大坂夏の陣で戦勝成就したお礼として京都愛宕山に奉納した絵馬を、困難に打ち勝ってほしいという思いを込めて京都愛宕研修会が復元。いま、困難に打ち勝ってほしいという思いを込めて本市に復元絵馬が寄贈。
	10日(木)	・平成25年白石市産米の安全を宣言。
11月	31日(木)	・「市民と市長のわいわいトーク」を再開。これからのまちづくりのために、各地区の地域振興に取り組まれている各種団体の代表や自治会長などで構成する「まちづくり会議」の会員などと、意見交換を行った(～11月29日)。
	25日(月)	・旧南中学校跡地に、仙南地域で初となるオートバル(株)のソーラー発電所が完成し、運転開始式。
12月	1日(日)	・自主防災組織や自治会、各学校の代表を対象とした「防災講演会」を開催。仙台管区気象台の調査官などによる講演会や、自主防災組織・自治会の代表による事例発表会などを行った。

平成26年

2月	6日(木)	・(株)TBMと、大鷹沢三沢に国内初となる石灰石を主原料にしたストーンペーパー「Limex」の製造工場を建設する協定を締結。
	12日(水)	・白石郵便局と、高齢者・障がい者などの孤独死を防止するため「安心生活見守りに関する協定」を締結。
3月	3日(月)	・平成26年度一般会計当初予算151億3,200万円(震災関連に4億8,000万円)。
	11日(火)	・自主防災組織や警察、消防、自衛隊などの代表で構成する「白石市防災会議」を開催。防災まちづくり計画の策定や地域防災計画見直し作業スケジュールの策定の審議などが行われた。



①「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン県南エリアオープニングイベント」を白石蔵王駅と白石城で開催。県南2市7町の首長などが震災からの復興と観光の再生の姿を全国に発信しようと勝ちどきをあげた(平成25年4月6日) ②天王工業団地にメクス(株)東北工場が完成し、落成式(平成25年9月28日) ③大鷹沢三沢に石灰石を主原料にした「Limex」の製造工場を建設する(株)TBMと協定を締結(平成26年2月6日)

3月11日は、一生懸命生きてきたのかを
振り返る日でもあるんです



▲右から山崎高寿さん、長女の杏ちゃん、次女のりらちゃん、尚子さん

地震のあったおよそ39分前、3月11日14時7分、白石にひとつの命が生まれました。^{やまざき たかしゆ}山崎高寿さん・^{しょうこ}尚子さん（城北町）の次女りらちゃんは、家族に温かく見守られながらすくすくと成長しています。

あれから3年。「3月11日は家族全員で安産祈願をした神社にお参りし、14時46分に黙祷をしてから、誕生日を祝っています。たくさんの方が亡くなりましたが、残された私たちには明日があります。1日1日を一生懸命に生きて、『1年がんばった』と言えるような生き方をしていきたい」と高寿さん。思いやりのある子に育ててほしいと、高寿さんと尚さんは子どもたちの成長を願っています。



あの日の記憶を、次代につなげる記録へ

東日本大震災 白石市の記録

平成 26 年 3 月

発行 白石市

宮城県白石市大手町 1 番 1 号

復興対策室 TEL0224-22-1561

編集・印刷 株式会社ソノベ

仙台市青葉区一番町 3 丁目 3-19

表紙写真は平成23年3月12日、6時35分撮影